

ワークシートの答えをお互いに確かめる
児童たち



柏原小学校(さつま町)

「話す・聞く」力養う

実践校4年目。これまで
は読んだり感想を書いたり
する活動が中心だったが、
本年度は「話す・聞く」力
を養うのに力を入れた。「記
事を基に自分の考えを伝
え、友だちの意見を聞く」と
いった対話を重視した」と
那須広代教頭(52)。

毎月の「NIEタイム」
も続く。2月は3年生15人
がワークシートに挑戦。社
会科で地域の伝統文化を学
ぶのに合わせ、垂水人形の
記事を取り上げた。児童は

人形の特徴や歴史について
の設問を解き、互いに答え
を発表。最後に担任の木戸
祥平教諭(28)が「宮之城人
形の制作大詰め」の掲載紙
を紹介すると、郷土の工芸
品に興味津々だった。

投稿も全校で呼び掛け、
掲載作は似顔絵やコメント
を付けて張り出すなど、児
童の意欲を高めるよう工
夫。4月以降、2回載った
吉留侑里さん(3年)は「お
ばあちゃんに褒められた」
と喜んだ。(本坊弓子)

新聞記事からテーマを見つけて俳句を詠ん
だ1年生



輝北小学校(鹿屋市)

日常会話に新聞登場

毎月1回、朝の30分間を
活動に充てる。実践校4年
目。低学年は新聞に触れる
こと、高学年は読解力や表
現力の向上に重点を置く。

例えば1月は、1年生は
記事からテーマを見つけて
俳句を詠み、2・3年生は
授業で習った漢字を紙面か
ら探した。4年生は鹿児島
弁にまつわる記事を題材に
問題を解き、5・6年生は
気になるニュースを選んで
感想文を書いた。

本年度は新たな試みとし

て、高学年が各自選んだ記
事を要約し、意見を発表し
た。伝える力を養うのが目
的で、聞き手には積極的
に質問するよう呼び掛けた。

また、廊下に各新聞社の
1面を張って読み比べを促
し、教室には新聞を置いて
自由に読めるようにしてい
る。担当の竹之内誉子教諭
(40)は「記事の話題が日常
会話に上り、分からない言
葉を辞書で調べるといふ変
化が表れている」と手応え
を語る。(成尾由理香)